市民プレス

令和元年
（2019年）
7月5日
第85号

発行人　「市民フォーラム」
編集人　原　昭二
制　作　デジタル工房

TEL 090(3048)5502
〒353-0004
埼玉県志木市本町 2-4-43

E-mail
hara@camelianet.com

SHIMIN PRESS

市民の目線で市民が発信する地域情報紙
WEB SHIMIN
http://shimin.camelianet.com

CONTENTS

-PAGE 1
旧制高等学校とは・・・
個人的な体験談 ー「入学式」と
自治体制の寄宿「武原寮」
-PAGE 2
寮生活が始まって・・・
昭和十九年 (1944) は終戦の前年のことになる。サイパン島の玉砕　東京大空襲
-PAGE 3
寮歌を唱う・・・
ポツダム宣言の受諾　ソ連軍の進攻
マッカーサーが日本に到着
-PAGE 4
第二十三回生卒業五十周年
記念文集、「櫟林」から

旧制高等学校の最後を見届けて・・・

旧制高等学校は戦前の教育制度で、旧帝国大学の予科として存在し、華麗なエリートを輩出した。その由来は、明治十九年 (1886) に公布された中学校令で、八校（東京の「第一」、仙台の「第二」、京都の「第三高校」ほかの所謂ナンバースクール）が設立され、のちに高等学校に移行した。

第一次世界大戦の好景気に沸く日本は、工業力が発展して、帝国大学の増設、定員増が求められ、大正九年（1920）のころ、官立の高等学校二十校、中学、高校を合わせた私立の七年制が発足した。

旧帝大の定員は、当初、旧制高校の卒業生の人数と略々同数だったので、卒業生は学科を選り好みをしなければ、各地の帝大にストレートに進学できる特権があった。従って受験勉強に青春時代を費やす必要が無く、有り余る時間とエネルギーを全て精神的・肉体的成長の為に注ぎ込むことができた。

旧制高校生のスタイルは、白線帽・高下駄・黒マント・手拭いの弊衣・破帽スタイルに身を包んで街を闊歩し、「デカンショ」と略されたデカルト・カント・ショーペンハウヘルの必読哲学書を読んでは思索を深め、議論することをを好み、酩酊しては友と肩を組んで、各校に伝わる寮歌を放吟した。又、ストームと呼ばれる狂乱の騒ぎで青春の力を爆発させ、「ゲル」（お金）「ゾル」（兵隊）「メッチェン」（女子）「ドッペる」（留年する）等のドイツ語由来の独特の旧制高校用語を多用し、「白線生活」と呼ばれるバンカラの三年間を過ごした。但し、新設された私立の七年制高等学校は、紳士を養成する英国のパブリックスクールを模範とし、スマートな校風で官立高校のバンカラ主義とは一線を画していた。

戦後の学制改革と共に、「旧制高校」化の魅力は、日本からすっかり失われてしまったが、今なお、その文化的な側面に惹き付けられる人々は少なくない。

「旧制高校」システムの力点は、所属の文理を問わず、古文漢文・外国語・文学・哲学・倫理学・論理学・歴史学等のいわゆる「教養」（リベラルアーツ）を幅広く学んで人格を涵養し、将来、各分野のリーダーとしてのバックボーンを形成することにあった。

残念ながら現在の高等教育制度からほとんど姿を消してしまった。もう一つは旧制高校の特色であるモラトリアム性（本来、モラトリアムとは、金融恐慌に備えて、支払いを猶予することだが、転じて、社会的な責任を一時的に猶予する「青年期」を指すことにもなった）であり、全国各地から集まった学友と寮生活等を通して切磋琢磨しながら、自分の適性を見出して大学の専攻を決定できたことではないだろうか。

以下、本紙編集人が、かつて在籍した旧制高校での体験を、個人的な目で語ろうとするのは、その時期が、第二次大戦の最中で、敗戦を経て、ついに廃校となった、ドラマティックな、そして目紛しき歴史を残しておきたい、という念願からである。

いま、出版界で流行している、自らの歴史として、「自分史」を書いて残そうでは、との合い言葉に与したことにもなる。

入寮式　昭和19年4月1日　歓迎寮歌「城北十里」の高唱で

入寮歓迎晩餐会

グラウンドで　自治体制の寄宿への「入寮式」

時は、太平洋戦争の敗色が漂う昭和十九年 (1944)、すなわち、終戦の前年のことである。

本紙編集人の原は、埼玉県浦和市に所在する県立「浦和中学校」から西方となる、JR北浦和の向かい側に在った、旧制「浦和高等学校」に入学した。四月初頭、戦時下であったにも拘らず、青春のモラトリアムにときを過ごすことができた。

一周すると400米の広いグラウンドの一画で入学式が行われた。校庭の赤松が、校舎を囲み、二階建て、六棟もの学寮に入居する、全寮制の学園生活が始まった。

入寮のイベント・・・

指定された学寮の部屋に、布団などの寝具と、日用品を運び込む。扉を開けると左右、確かに六畳の部屋に分かれ、一年上級の室長を加えて、三名づつが入室した。辺りが何となく騒がしくなる。マントを冠ったり、お面を付けたり、悪魔風を装った上級生のお迎え・・・所謂ストームの襲来である。

赤松に囲まれた
校舎の群像

創立期の鳥瞰図

寮生活が始まって・・・

同室の友人で、一番若かったものが、剥ぎ取られて素っ裸にされる。私と並んで寝る筈の友人は、当時、清朝（のちには中国となる）からの租借地だった関東州、大連から、遥々朝鮮半島を縦断して、日本列島に上陸、なぜか浦和高校を目指したのである。しかし、戦時中の混乱のため、荷物一切が着荷する気配は全く無かった。事情を聞いた悪魔さんは、私に命令した。お前の寝具は立派過ぎる！彼のために、半分差し出せ！、と。

英語のテキストには・・・

good by chips（チップス先生さようなら）が選ばれた。当時英語は敵国語だったので、旧制高校の入試科目には入っていなかった。しかし、入学後には、一転して主要科目となる。

米国とその連合国の攻勢は激しさを増し、健康であれば、何時徴兵されてるかは目前に迫る、という雰囲気だったので、講義は最高度のスピードで進められ、四月に開始されたチップス先生は、六月には完読して、学期のテストを迎える。

寮の同僚には、成績なんて問題にするな、と投げるものあり、一方では、布団を被って音読するものあり、だったが、教室で、丁度隣席になる太田君は、私とタグを組むカンニングの計画を持ち掛けてきた。テキストを前後に分割し、私が前半を受けもち、彼は後半を精読して、答案を遣り取りする、というものだった。しかし、必勝を期した作戦だったが、もろくも敗れ去る。というのは、試験監督の先生は、まるで戦術を熟知されていたのか、太田君の席近くを離れなかった。そして、テストは全部、前半から出題されたので、私の答案はほぼ正解だったが、答案用紙を太田君と遣り取りすることは不可能に終わった。

「武原寮」のベランダは大事な思索のスペース

ドイツ語の講義は、文法で始まり、ich bin, du bist, ihr ist,（私は、君は、貴方は）、英語の be 動詞の変化を、声高く読み上げる。さて、次の授業では、先生から指名された小菅君が立ち上がり、復唱する。声高く、ich bin, ich bin, ich bin, は繰り返された。しかし、du bist には一向に進まない。時間は経っても先生は待つだけで。助けは皆無、以後、イッヒビンは、小菅君のニックネームとなる。

信じ難い能力の持ち主・・・

もう一人の友人、彼は、なんと、何時でも、頼まれれば、方を揺すって起こしてくれる。自分は眠る時間がいったいあるのか？　誰もが不審をもった。後で分かったことだが、子供のときから、家族も無く、孤独で、新聞配達の収入で暮らし、学校にも行かれなかったらしい。自力で、高校に進学する資格を取得した。苦労人である。

「機甲班」の部屋前で　　機甲とは・・・・

自転車からオートバイ、四輪車まで分解と組立て

西二寮「機甲班」のメンバー

「武原寮」西二寮一階の部屋で

昭和十九年（1944）は終戦の前年のことである。

二月、米軍は太平洋に浮かぶマーシャル群島に上陸、日本軍守備隊は敗退、東條英機首相は、人心を一新するため、内閣改造。

三月、インド北東のインパールを目指した陸軍の作戦では、悲惨な敗北を喫した。

四月　五月

六月、連合国軍は、イタリーのローマを占領し、ノルマンディー上陸作戦を開始。

日本では、米軍がサイパン島に上陸、マリアナ沖海戦で、日本海軍の空母機動戦力を喪失した。閣議は、学童疎開を決定。

七月、日本軍守備隊は玉砕。東條内閣、閣内不一致とサイパン失陥の責任を取り、内閣総辞職。米軍、グアム島に上陸、つづいてテニアン島に上陸する。

八月、学徒勤労令、女子挺身勤労令公布。連合国軍、パリを占領。シャルル・ド・ゴール、パリ入城。重要工場に疎開命令。

九月

十月、フランクリン・ルーズベルト米大統領は、駐ソ米国大使を介してスターリンソ連首相に対日参戦を提案。兵役法施行規則が改正公布され、満17歳以上の男子を兵役に編入（11月1日から実施される）。

レイテ沖海戦（10月23～25日）アメリカは、日本軍の侵攻によってフィリピンを失ったが、

十一月

二十四日、第一回の東京空襲、二十七、二十九、三十日へと続く。

十二月

昭和二十年、一月となり、敗色は一段と濃厚になる。

国際的な動向を見詰めていた、近衛文磨が上奏文を起草し、二月、天機奉伺を名目に参内して、昭和天皇に上奏文（近衛上奏文といわれ、重要な転機をつくった）を捧呈する。

公爵近衛文磨は、若くして政治家を志し、昭和十二年、1937年には、総理大臣の指名を受けた人物である。当時、険しい陸海軍人に囲まれ、優柔不断な行動を余儀なくされたが、常に新体制を模索してきた。昭和十五年（1940）、左右合同の組織として、大政翼賛会をつくって初代総裁を務め、さらに、第二次、三次近衛内閣をも率いた。

しかし、敗戦を意識し始めた文磨は、陸・海両軍人であっても、平和を求めて外交に結び付けようとする人々に接触しつつ、ついに意を決して、天皇に上訴するに至った。

二月

三月九日から十日

東京大空襲が開始され、十三日には、大阪の空襲が始まる。

小磯内閣が、蒋介石の率いる重慶との工作のために招いた、繆斌が来日。十七日、日本軍は硫黄島で玉砕。神戸大空襲。繆斌、東久邇宮稔彦王と会談。「国民義勇隊組織ニ関スル件」閣議決定、国民義勇隊創設。小磯首相、繆斌工作について上奏。翼賛政治会が解散し、大日本政治会（総裁、南次郎陸軍大将）が結成される。

四月一日、アメリカ軍が沖縄本島に上陸。五日、重臣会議。後継内閣について協議。ソ連が日本に対して、日ソ中立条約を延長しないことを通告。七日、海軍が建造した史上最大の戦艦大和が沈没。八日、大本営陸軍部は、本土作戦計画を策定。十五日、吉田茂が終戦工作を問われ、東部憲兵隊司令部に逮捕される。

ヨーロッパでは、二十五日、ドイツのエルベ川で、ソ連軍と米軍が合流（エルベの誓い）した。サンフランシスコ会議が開催され、六月まで続く。イタリア社会共和国が崩壊し、ベニート・ムッソリーニ首相らは逃亡、愛人クラーラ・ペタッチとともに逮捕されて銃殺される。三十日、アドルフ・ヒトラー独総統自殺。

五月　ソ連軍はベルリンを占領、七日、ドイツは無条件降伏。

日本では、最高戦争指導会議構成員の会合が数回開催され、終戦のための対ソ連交渉について討議される。

六月、廣田弘毅元首相が、箱根強羅ホテルで静養中の駐日ソ連大使を訪問。六日、昭和天皇臨席の最高戦争指導会議で指導大綱を採択、九日から始まった臨時議会で、国民義勇戦闘隊を創設する義勇兵役法などの戦時特別法案が提出されて成立。鈴木貫太郎首相が本会議で行った演説について、議員の質問を受け、議事が紛糾した（天罰発言事件）。二十二日、御前会議で、昭和天皇は最高戦争指導会議構成員に対して終戦の決意を表明。

七月、十日、最高戦争指導会議が開催され、ソ連に特使の派遣を決定、十二日　鈴木首相、木戸幸一内大臣を通じて、昭和天皇から直接、近衛公に対してソ連特使の下命を願い出る。近衛公は参内して昭和天皇からソ連特使就任を命ぜられ、受諾。

東郷外相は、佐藤尚武駐ソ日本大使を通して近衛特使派遣を急報した。十三日、佐藤駐ソ大

昭和十九年
一月
二月　ドイツのエルベ川で、ソ連軍と米軍が合流（エルベの誓い）した。
三月　会共和国が崩壊し、ベニート・ムッソリーニ首相らは逃亡、愛
四月　アドルフ・ヒトラー独総統自殺。
五月　ソ連軍はベルリンを占領、七日、ドイツは無条件降伏。
六月　根強羅ホテルで静養中の駐日ソ連大使を訪問。六日、昭和天皇
七月　臨席の最高戦争指導会議で指導大綱を採択、九日から始まった
八月　創設する義勇兵役法などの戦時特別法案が提出されて成立。鈴
九月　件）。二十二日、御前会議で、昭和天皇は最高戦争指導会議構成
十月　員に対して終戦の決意を表明。
十一月
十二月

二十三回生入学式
第一次試験
サイパン島に上陸
サイパン玉砕の報
二学期試験
第一回の東京空襲

武蔵が原　大正十一年度寮歌

一　武蔵が原の末遠く　櫟林に闇落ちぬ
煙は低く雲迷ひ　夜は陰惨と暮れ行けど
地に聳り立つ松の幹　陽に赤々と燃ゆるかな

二　燃ゆる思に胸溢れ　櫟林の奥に湧く
泉掬ふと分け入れど　迷羊遂に術もなく
丘辺に立ちて嘶けば　嘯けば　頬紅に染まるかな

三　道渾沌と闇深く　夕づく星の影もなし
いざや彼方の丘の上　薄紅に匂ひ出し
聖き光を懐かしみ　己が古巣に帰りなん

四　嗚呼滾々と湧き出づる　泉の美酒を掬ひつゝ
今宵ぞ明き灯の下に　互ひに酌まん友や誰れ
友よ腕を差し出せ　一葉緑我にあり

五　葉盃溢れ滴れば　膝に乱るゝ夜の花
泉の美酒の甘くして　愉楽の契果知らず
三年の月日泡沫と　消えんも淡き夢の寮

六　夜咲く花の落散りて　六寮闇も深き時
樹陰を忍ぶ月影ぞ　若き眠りの胸に射す
君よ聞かずや硝子戸に　夜を啜り泣く郷愁

作詞　藤倉　寛三
作曲　諸井　三郎

昭和三年寮歌

春

春の調のときめきに　微笑む花を積みのせて
夢にまどろむ佐保姫の　玉の輿来ぬ瑶沙原
繻の空に揚雲雀　繚燗の野に舞う誇張
情操のゆたけき若人は　花を褥の草枕
草に五月の香せば　棟の緒琴は高鳴りて
真紅に燃ゆる想あり
嗚呼此の野辺に並び立つ　若き心の憩屋は
春永遠の国なれや　春とこしへの国なれや

校　歌

一　大いなるかな武蔵野は　天の紺碧地の緑
渺茫（びょうぼう）として果もなし　あゝ人生の朝にして
自由の翼音高く　理想の国を天翔ける
我等に何ぞふさわしき　大いなるかな天地
大いなるかな我等

二　美しいかな武蔵野は　このもかのもに桜草
繚乱として乱れ咲く　あゝ人生の晴にして
シンクの血潮色若く　至純の郷にあこがるゝ
我等に何ぞふさわしき　美しいかな天地
美しいかな我等

三　壮んなるかな武蔵野は　秩父颪（おろし）のひたよせに
飄々（ひょうひょう）として渦を巻く　あゝ人生の戦に
久遠の勝を制すべき　力の戦士義の勇士
我等に何ぞふさわしき　壮んなるかな天地
壮んなるかな我等

静高遠征歌

一　杜鵑血に鳴く時五月　花橘も打ち香り
心の駒の勇むかな　若武者立ちて原頭に
睥睨するや関八州

二　武蔵が春は深うして　人月花に戯れつ
歓楽の夢覚めぬ時　悍馬に当つる鞭一つ
原頭翔くる人や誰れ

三　嗚呼燦爛と陽は沈む　瑤沙が丘の夕まぐれ
治世に乱を忘れざる　健児六百集ひては
如何なる覇業か成らざらん

四　筑波風しの吹き荒れて　醜草靡く武蔵野に
今健 剛の敵もなし　脾肉に歎く若武者が
大挙襲ふや西の国

五　今鎧袖の一触に　絢爛の夢に醉ひしれし
敵を砕かん時は来ぬ　嗚呼我舞はん勝鬨を
処は駿河山は富士

作詞作曲者不明

使はソ連外務省を訪ねる。十七日、ポツダム会談。二十五日、原爆投下の日程が正式に決定される。二十六日、ポツダム宣言が発表される。翌日、外務省は、ポツダム宣言について検討。東郷外相ら外務省首脳は、同宣言の全面受諾に賛成。東郷外相が参内し、ポツダム宣言について言上。二十八日、最高戦争指導会議情報交換会の後、鈴木首相が、新聞記者会見で「ポツダム宣言を黙殺」と発言。

八月初旬、東京新橋の片山哲弁護士事務所で原彪、鈴木文治らが社会主義政党結成について会合。六日、ポツダム会談終了し、同日午前8時15分、米軍が広島市に原子爆弾を投下。八日、深夜、ソ連が日ソ中立条約を破棄、日本に宣戦布告。九日未明、ソ連軍が満州に侵攻、対日参戦開始。

同日、午前、ポツダム宣言の受諾の可否について最高戦争指導会議が開かれる。午前11時02分、米軍が長崎市へ原子爆弾投下。十日、ポツダム宣言の受諾の可否について御前会議が開催され、未明、御前会議で「国体の護持」を条件に日本のポツダム宣言の受諾を決定、連合国側に向けて打電する。

十一日、ソ連軍が日ソ国境を越えて南樺太に侵攻する。十三日、最高戦争指導会議・閣議は紛糾したが、十四日　午前11時、昭和天皇が御前会議でポツダム宣言受諾の意思を表明。午後9時、ラジオで「15日正午より重大発表あり」という旨の放送。午後11時、ポツダム宣言受諾を連合国側に通知。

午後11時20分、昭和天皇が玉音放送を録音。

ダグラス・マッカーサー米太平洋陸軍司令官が連合国軍最高司令官（Supreme Commander for the Allied Powers、SCAP）に就任。

大本営が攻勢作戦の停止を発令（自衛反撃は継続）。

中ソ友好同盟条約締結。

十五日、陸軍の一部がクーデター未遂。阿南惟幾陸相が自殺。玉音放送（終戦の日）。

鈴木貫太郎内閣総辞職。

芦田均、安藤正純ら新党について交詢社で会合。

大阪にいた西尾末広、京都の水谷長三郎を訪問し、社会主義政党結成と労働組合再建を提唱。

十六日、スターリンソ連首相、北海道占領をトルーマン米大統領に要求。トルーマンは18日に拒否回答。

十八日、満州国皇帝愛新覚羅溥儀退位。ソ連軍が千島列島で攻撃開始。

十九日、大本営が戦闘中止を発令。

二十三日、スターリン、日本軍捕虜のソ連国内への移送を指令（シベリア抑留）。

二十五日、連合国軍先遣部隊が沖縄本島より厚木飛行場に到着。

蒋介石・毛沢東による国共首脳会談開催（重慶会談）。

三十日、マッカーサーが沖縄本島より厚木飛行場に到着し、米太平洋軍総司令部（GHQ/USASPA）を横浜税関に設置。

ソ連は北海道占領への軍事行動を停止。

三十一日、米軍主力が横浜・館山に上陸する。

九月

一日 - 第88臨時議会召集。

二日　東京湾上の戦艦ミズーリ艦上で、重光葵外相、梅津美治郎参謀総長らが降伏文書に調印（第二次世界大戦終結）。

ホー・チ・ミンを主席とするベトナム民主共和国が成立。

マッカーサー元帥、北緯38度線を境とした米ソによる南北朝鮮の分割統治を発表（連合軍軍政期）。

三日　ルソン島の日本軍降伏。

四日　ウェーク島（中部太平洋のサンゴ礁で、かつてはアメリカ海軍の重要な拠点）の日本軍が降伏。

五日　ソ連軍、千島列島の色丹島を占領。北方四島の占領を完了。関東軍首脳部がハバロフスクへ移動し、後に五十七万人がシベリアに抑留される。

マレー、シンガポールにイギリス軍上陸。

六日　鳩山一郎、芦田均、河野一郎、斎藤隆夫ら交詢社で会合。朝鮮人民共和国が建国宣言（11日に瓦解）。

八日　連合国軍、東京を占領、都内の建物600箇所以上を接収。

九日、支那派遣軍総司令官が降伏文書に南京で署名。

十五日　東京・日比谷の第一生命館を接収。昭和天皇、GHQ本部へ行幸。

十月十五日　本土の日本軍、武装解除を完了。十一月十八日　皇族資産凍結。

十二月六日　近衛文麿や木戸幸一など民間人九人を逮捕。七日　農地解放指令（農地の小作人への分配）。三十一日　「修身、日本歴史及び地理停止ニ関スル件」（覚書）を発令。修身、国史、地理の授業は中止、教科書は蒐集される。

昭和二十年
一月
二月
三月　東京大空襲
四月　三学期試験
五月　本土作戦計画の策定
六月　独伊両国が崩壊
七月　空襲で校舎消失
八月　ドイツ無条件降伏
九月　御前会議で昭和天皇終戦の決意を表明
十月　ポツダム会談
十一月　原子爆弾投下　ポツダム宣言受諾　玉音放送
十二月　一、二学年授業開始　文理で転科が認められる
　新関良三校長赴任
　授業終了

平成九年三月、第二十三回生は、卒業五十周年記念文集、「櫟林」四百頁を編集、発行した。

この文集は、恩師像を含むグラビア、各クラスの生徒名など、多くの資料を記し、当時の世相までを彷彿とさせる歴史書ともなる。素晴らしい出来栄えである。

また、平成四年九月、旧制浦和高校同窓会の記念事業として、「浦和高等学校史」が発行されている。

記念誌から当時を偲ぶ

以下、「櫟林」誌を頼りにし乍ら、当時のことを振り返ってみたい。

昭和十九年

四月

・1（土）新入生（二十三回生）入学式、安斎校長告辞、入寮式はテニスコートで、寮歌「城北十里」、夜は歓迎ストーム
・2（日）各班の親睦会、滝大佐の訓示、夜は晩餐会
・3（月）氷川神社に参拝
・4（火）授業開始、寮歌練習
・8（土）調（つきのみや）神社に参拝
・15（土）柳田謙十郎先生の講演、「日本文化と日本精神」を聴講
・24（月）全寮生夜行軍で東京へ二十五キロ　靖国神社臨時大祭

五月

・5（金）防空演習
・7（日）皇居へ、靖国神社参拝
・8（月）春季行軍大会四十キロ
・13（土）初めて外泊が許される
・15（月）農作業　報国農場で
・19（金）寮の記念祭始まる
・20（土）突然警戒警報
・21（日）体育祭　午後　音楽祭
・27（土）第一次試験始まる
・31（水）第一次試験終わる

六月

・1（木）第一回室替え　夜　理二の組コンパ
・12　各班対抗の大宮行軍
・18（日）全寮蚤退治大掃除
・30（金）理一、二組　麦刈作業

七月

・16（日）寮新役員の任命
・18（火）サイパン玉砕の報
・26（木）第二次試験始まる
・29（土）東三寮長を予備学生として送る、最初の壮行会
・31（月）第二次試験終わる

八月

・1（火）特別夏期鍛錬　農作業、戦技訓練、班鍛錬等
・11（金）二学期始まる
・14（月）第二回室替え

九月

・10（日）戸田橋行軍大会

十月

・23（月）八木秀次氏の講演「軍事と科学」
・29（日）埼玉県中条村・藤沢村に勤労動員、11・11まで

十一月

・13（月）授業再開
・27（月）二学期本試験始まる
・29（水）夜の空襲　壕へ待避
名月から雨、東京の空が真っ赤に

十二月

・1（金）二学期本試験終わる
・4（月）全寮コンパ（最初の試み）
・8（金）宣戦三周年、調神社へ
・27（水）昼の空襲　東京上空は高射砲の煙幕　敵機撃墜か

昭和二十年

一月

・1（月）拝賀式　空襲3回
・6（土）授業開始
・11（木）入試の第一次発表
・15（月）残寮願の提出

二月

・8（木）文科系には許されなかった兵役に就くため、二十三回生第一号が入営、その後八月までに二十二回生、井上芳夫、飯塚明、市村矩厚、川村正保、笹谷準一、沢田健二、土肥英二、萩原宏平、水谷俊忠、若槻宏義が入営
・14（水）室替え　各室4人ずつに（それ迄は6人ずつ）
・16（金）初めて艦載機の空襲

三月

・2（金）吉岡教授、寮責任者に
・6（火）二年寮生送別コンパ　浦和で徴兵検査
・9（金）東京大空襲　本所、深川の密集地帯
・10（土）東京大空襲　電車、大宮駅等に罹災者の群
・15（木）第三学期試験　20まで
・21　硫黄島最後の総攻撃の発表
・27　米軍沖縄に上陸

四月

・14（土）夜の大空襲、ついに浦和へ　寮宿直の柳屋先生宅も罹災
・15　大宮も空襲で、鉄道工場と中山道の一角三百戸位が焼かれる

五月

・2　ムッソリーニ処刑、ヒットラー自殺の報
・7　第二学年第一学期試験　10まで
・14　工場動員　理科二、三組は王子の理研圧延工場へ、文科及び理科一、四組は与野の新潟鉄工へ、一部は小林理研、陸軍第七技術研究所へ
・15（火）工場入所式
・25　夜の空襲で校舎が消失した図書、物理器具等を搬出
・26（土）米機捕虜が校庭に並べられる

六月

1（金）野島教授応召
17（日）樋口、戸谷、寺島、飯塚、中山、別所、前川の残寮が内定
19　武原寮最後の寮歌祭
25（月）残寮七名の合宿始まる
26　沖縄島最後の報せ
22（金）第二学年第三学期試験　26まで

四月

1　第三学年始まる　五十日の休暇の始まり
10（水）初の総選挙
23　弊原内閣総辞職

五月

1　メーデー復活　十一年ぶり
20　学校再開　校舎は西側の旧陸軍健民修練所（進駐軍駐屯地あと）改築おくれ一週間延びる　理科は旧三組が他の組に振り分けられ、五組が四組になる　文科は一組が二組に増える
21（火）始業式　22、23は校舎整備アルバイト　机運び
27　授業開始　必須科目のみ　この頃　昭和二十年度遊遥歌「おとなへる」井上芳夫作詞、山形庫之助作曲

六月

1　6月より寮の食費値上げ　45円が一挙125円に
10　授業に選修科目加わる
21（金）新入生入学式　入寮式　歓迎ストーム

七月

13（土）一学期終わる

八月

11（日）帝劇でバレエ「白鳥の湖」
金融緊急措置、預金封鎖

九月

15（日）国鉄　解雇を撤回　ゼネスト中止

十月

1　二学期始まる　式のみ
2　授業開始　二月半ぶり
28（月）三年前期試験　11・2まで

十一月

6（水）後期始まる
20　大学志望の調査
29　第二十四回寮記念祭始まる
公開は三、四年ぶり

十二月

1（日）一般公開　仮装行列
17　授業終わる
21　和歌山沖大地震

昭和二十二年

一月

13（月）三学期始まる

二月

1　ゼネスト禁止　マ元帥
7　大学入試要綱発表
8　授業参観日
10（月）卒業試験　16まで
16　寮で旧役員送別コンパ、高橋写真館で撮影
25　八高線列車事故

三月

28（金）卒業懇談会

昭和二十一年
- 二月　三学期始まる　柳田謙十郎教授講話　ラジオで
- 三月
- 四月　第三学年始まる
- 五月
- 六月
- 七月
- 八月
- 九月
- 十月　二学期始まる
- 十一月
- 十二月　授業終了

昭和二十二年
- 二月　三学期始まる
- 三月　大学入試要項発表
- 二月　東京帝国大学合格発表

「市民フォーラム」の活動

「市民フォーラム」は、地域住民と行政に対して取材活動を行ない、報道によって市民の公共参加を推進します。また市民間のコミュニケーションの増進に努めます。

読者の「オピニオン」（意見・感想）をお寄せ下さい。

TEL　090（3048）5502
編集部原宛にどうぞ

昭和二十年度寮歌　高き眠り

作詞　井上芳夫

一　高き眠りを悲願ふなき　濁世の光遠く見て
臥龍の思索滾る時　知らずや櫟林分け入りて
北斗を翳す友の影

二　横笛遠く消え果つる　故園の色の深ければ
星くづ凍る霜の夜に　暗迷の淵黙しゅく
衆生の夢は寒からん

三　折り悲しき丘の上　伝統の契りいたむごと
山脈黝む野の涯を　雁の啼声雲暮れて
永却の鐘　渡りゆく

四　あゝ潜龍と我は泣き　友は雌伏と応へてし
二十三古の夢遠く　世は混濁と荒ぶれど
草廬の思索光あり

五　若き生命の運命の　悲嘆は深く彷徨ひて
懐古の涙熱けれど　季の嵐荒ぶるに
治世の雄図如何にせむ

六　流転の相低く見て　更けゆく自治の寮の窓
聴かずや理想の灯の明るく　二年の夢胸に秘め
出廬に期する友の歌

井上芳夫は、記念文集、「櫟林」に、次の一文を寄せている。

秋の庭で

井上　芳夫（体操・文芸）

楓の葉は上の方が真紅に輝いて下にゆくにしたがって黄色味をおびている。楓が黄金色に輝いて　銀杏が　山桜が　そしてすべての樹々が高原の秋を彩っている。

この八ヶ岳の山ふところに移り住んで八年目　初めてゆっくりと庭を眺めている。

楓の彼方には甲斐駒ヶ岳の綾線が連なり　その更に奥に北岳の頂上がそびえている。十一月から五月までそれは凍りつき　白銀の塔のように鋭く輝く。私は思い出す。伊東静雄の「曠野の歌」の一節「わが死せん美しき日のために　連嶺ぶのではなく　運命に否応なく引き裂かれてゆく若い三人の男女が描かれていた。「よし　やろう」私はそれが大変な仕事である事を覚悟して引き受けた。引き受ける事が自分への責任だと思った。「今あの時代の一端を掘り起こす事が出来たら……訴える事が出来たら……」

あの大戦は私に何を残したのか「云ふなかれ君よわかれを　世の常をまた生き死にを　海ばらのはるけき果てに　今やはた何をか云それでよい」

昨年の一月　「この仕事をやらないか」と渡された企画書には「ハンガリア舞曲をもう一度」とあった。テレビ朝日の終戦五十周年記念番組だと云う。読み始めるとそこにはかつての日　自分自身も捲き込まれたあの戦争の中での青春があった。声高らかに反戦を叫ぶのではなく　運命に否応なく引き裂かれてゆく若い三人の男女が描かれていた。「よし　やろう」私はそれが大変な仕事である事を覚悟して引き受けた。引き受ける事が自分への責任だと思った。「今あの時代の一端を掘り起こす事が出来たら……訴える事が出来たら……」

ここに住んで七度目の冬　昨年の十二月に　脾臓を摘出し　今年一月からは制ガン剤による治療を事十二クール受ける事になった。死あの影が太平洋戦争以来五十年ぶ出来たら……」

の夢想よ　汝が白雪を消さずあれ」

ここに住んで七度目の冬　昨年の十二月に　脾臓を摘出し　今年一月からは制ガン剤による治療を事十二クール受ける事になった。死あの影が太平洋戦争以来五十年ぶりに眼の前に近づいている感じで……」

あった。「連嶺の夢想よ　汝が白雪を消さずあれ」　私は願った

「死んだらあの楓の下　池の畔り」に埋めて貰おう　墓標は要らない常をまた生き死にを　海ばらのは小さな自然石を載せてくれればるけき果てに　今やはた何をか云

それでよい」

昨年の一月　「この仕事をやらないか」と渡された企画書には「ハンガリア舞曲をもう一度」とあった。テレビ朝日の終戦五十周年記念番組だと云う。読み始めるとそこにはかつての日　自分自身も捲き込まれたあの戦争の中での青春があった。声高らかに反戦を叫ぶのではなく　運命に否応なく引き裂かれてゆく若い三人の男女が描かれていた。「よし　やろう」私はそれが大変な仕事である事を覚悟して引き受けた。引き受ける事が自分への責任だと思った。「今あの時代の一端を掘り起こす事が出来たら……訴える事が出来たら……」

あの大戦は私に何を残したのか「云ふなかれ君よわかれを　世の常をまた生き死にを　海ばらのはるけき果てに　今やはた何をか云わん　熱き血を捧ぐる者の　大いなる胸を叩けよ……」大木惇夫の「戦友別盃の歌」は　その頃の私の愛唱する詩のひとつであった。しかしもう一方の心の中ではもっと小説を読みたい　もっと詩を論じあいたいの思いが激しく燃えていた。十八歳で戦場に狩り出されるのも覚悟の上と　親の反対を押し切って徴兵延期という特典のない文科を志望した。しかし殺されるのは　まだ早過ぎる。「もう少し時間を下さい」　私は祈った。しかし結局は召集され　その軍隊では隠し持って行った岩波文庫の「新古今和歌集」を内務検査でみつけられ　顔が歪むほど殴り投ばされた。だがその痛みよりも「こんな軟弱なものを読みやがって」と引き裂かれてゆく文庫本が悲しかった。そしてまったくの偶然から広島で原爆を被爆し　ボロボロになって復員をしたあの戦争――

考えてみると　身体の変調は六月末に完成　幾つかの試写会も終って　新聞や雑誌の批評はおおむね好意的であった。

しかし　ほっとしたというより疲れ切っていた。好きな庭の手入れも十分とは続けられない。山歩きも何度か途中で引き換えした。そして十月　軽い気持で行った先の病院で　検査入院をすすめられ十二月の末　血液ガンと告知されたのである。

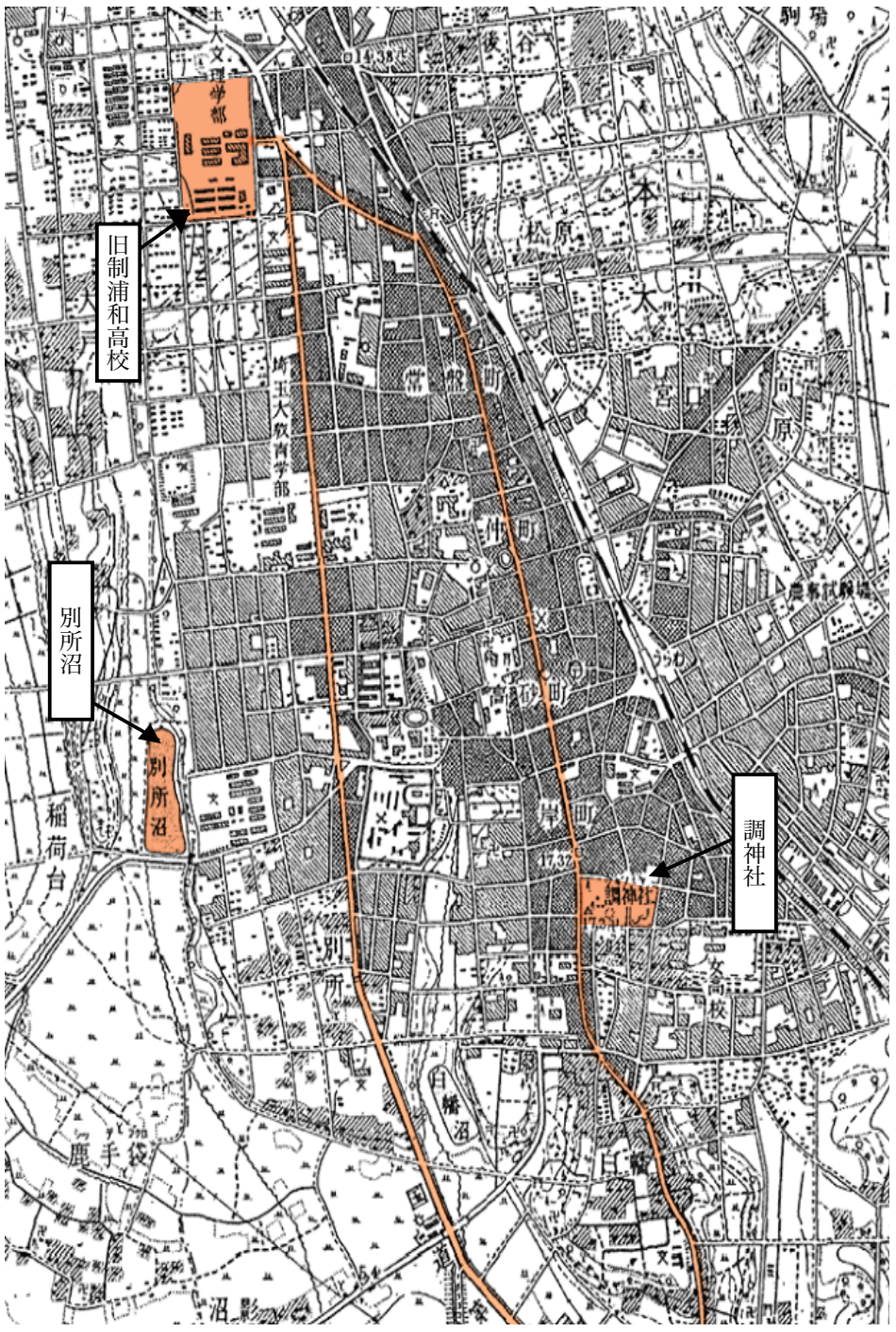
「ひょっとすると広島での被爆の影響という事も考えられますね」

同じ言葉を二十年ほど前　甲状腺を手術した時の医師にも云われた。更にその前　あの敗戦の年の冬　東大の柿沼内科で診断を受けた時　突然教授が助手たちを集めた時の光景を思い出す。「見給えこれが原爆の第二次放射能による症状だよ」　助手たちは珍しい生き物を見るように身体中が腫瘍だらけの私を見た。

健康は劇的に快復し　来年春にはまたあのすさまじい撮影現場へ帰る事になっている。それにしても「わが死せん美しき日のために　連嶺の夢想よ　汝が白雪を消さずあれ」あの美しい詩にふさわしい北岳を存分に眺められるこの庭に埋められるその日まで　あとどれほどの時間があるのか　その間にどれほどの事が出来るのか……そう思うとこうやってゆったりと思い出に浸っていたれる今は　とても倖せな事かも知れない。

秋の庭は　ほんとうに美しい。

戦後五十年を自分自身の中で区切るために昨年八月　被爆申告をしに県庁へ行った。二十年前から三度目の事である。しかし　答えは前二回と同じであった。「現場を目撃した二人以上の証人がいないと申告は受理出来ません」私は叫びたかった。「あんた　あの広島の地獄絵を知っているか！　まったく見知らぬ街で　皆死にもの狂いの中で　単なる通行人でしかなかった私の被爆を誰が証明してくれる……」怒りではない　淋しかった。

しかし　五十年という歳月はひどく遠いものなのだ。子供の頃遠い神話のような思いで親から聞いていた日清・日露の戦争は　私の生れるたった三　四十年ほと昔の出来事でしかない。と考えるとあの「ハンガリア舞曲をもう一度」への思いとは　私の過ぎ去った青春のひととときへの郷愁でしかなかったのだろうか。

埼玉大学教育学部人文地理学の谷謙二先生が作成された
今昔マップ on the web
旧浦和町、昭和２０年ころ
旧制浦和高校、別所沼、調神社、中山道に目印あり